オリンピックスポーツ文化研究
2019. 6　No. 4　149 ― 155

研究報告

オリンピック・パラリンピック教育実践の特徴把握に向けて
～講師派遣の実績を手掛かりとして～

乳　井　勇　二（総合スポーツ科学研究センター）
秋　和　真　澄（総合スポーツ科学研究センター）
冨　田　幸　祐（オリンピックスポーツ文化研究所）
関　根　正　美（スポーツ哲学研究室）

Ⅰ．はじめに

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会（以下 2020 東京大会）の開催に向けて，さまざまなオリンピック・パラリンピック教育（以下オリ・パラ教育）が推進されている（東京都教育委員会，東京 2020 教育プログラム）[1]．オリ・パラ教育とは，オリンピック・パラリンピックを題材にして，①スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上，②障害者を含めた多くの国民の幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的な参画（「する」,「見る」,「支える」,「調べる」,「創る」）の定着･拡大，③児童･生徒をはじめとした若者に対する，これからの社会に求められる資質・能力等の育成，を推進することを目的としている．また，オリンピック・パラリンピックに関して学ぶことを通じて国民のスポーツへの参画意欲を深め，それがさらなる学びへとつながる好循環を創り出していくことが必要であるとされている[2]．

そこで 2016 年よりスポーツ庁は「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」（以下オリ・パラ事業）を実施している．オリ・パラ事業はスポーツ庁に加え，内閣官房，2020 東京オリンピック・パラリンピック組織委員会，日本オリンピック委員会（以下 JOC），日本パラリンピック委員会（以下 JPC），日本財団パラリンピックサポートセンター，そして中核拠点大学となっている筑波大学，早稲田大学，日本体育大学によって推進されている．中核拠点大学はオリンピック・パラリンピック教育推進地域（以下オリ･パラ教育推進地域）と連携し，オリンピック・パラリンピック教育推進校（以下オリ・パラ教育推進校）の支援を行っている．これに伴い，日本体育大学（NSSU：Nippon Sport Science University）ではオリンピック･パラリンピック･ムーブメント全国展開事業【NSSU-Center for Olympic Paralympic Empowerment（以下 N-COPE)】を 2016 年に設立した．

N-COPE は 2016 年に 3 拠点（石川県，高知県，長崎県），2017 年には 7 拠点（千葉県，石川県，兵庫県，高知県，長崎県，千葉市，大阪市）を担当し，推進地域全体への支援を行っている．具体的な支援内容として，地域担当者となるコーディネーター（教育委員会指導主事等）への支援，地域セミナーおよびワークショップの際に推進校教員へのオリ・パラ教育のレクチャー，推進校の授業実践への支援などがある．

推進校では本事業の方針を踏まえ,「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」に大別し実践をしている[3]．この取り組みの内容については，オリンピアン・パラリンピアンなどの講師を派遣してオリンピック・パラリンピックに関する知識を学ぶ方法と，講師を派遣せずに学ぶ方法に分けることができる．例えば 2017 年度

より事業に参画し，2020年東京大会の競技会場となっている千葉市では，パラリンピックへの理解を深めていくことを重視している．そして大半の推進校で講師を派遣せず，体育授業にてパラリンピック競技の体験を実施することでパラリンピックについての知識を学ぶ取り組みが実践されている[4]．多岐に渡る視点から多様な方法で行われているオリ・パラ教育の実践より本稿では2017年度にN-COPEに報告された取り組みを類別し紹介する[5]．

2020年東京大会に向けて，オリ・パラ教育を推進していくことは大会終了後にオリンピック・パラリンピックが何を遺したのかということや，無形のレガシーを考える上でも非常に重要であり，本稿において実践内容を類別し報告することはオリ・パラ教育の展開を振り返る際の貴重な資料となると考えている．

Ⅱ．オリ・パラ教育実施校の取組内容

まずはオリ・パラ教育を行ったすべての学校における，講師の派遣状況を示す．（表1）さらに講師派遣の内訳はオリンピアン，パラリンピアン，アスリート，パラアスリート，ゲストティーチャーに分類することができる．（表2）

表1からわかる通り，オリ・パラ教育を実施している学校では81％という高い割合で講師の派遣が行われていることが明らかとなった．オリ・パラ教育の実施は派遣講師に頼りながら多くの学校で取組を進められていることを示している．

表1　2017年度オリ・パラ事業講師派遣状況

あり	なし	実施校合計
60（81％）	14（19％）	74

表2の内訳の割合をみると，オリンピアンが28％，パラリンピアンが19％，アスリートが5％，パラアスリートが12％，ゲストティーチャーが36％であった．選手としてオリンピック・パラリンピックに関わっている講師（オリンピアン，パラリンピアン，アスリート，パラアスリート）を合計すると64％であった．

また，派遣された講師をオリンピアン，パラリンピアン，アスリート（パラアスリートを含む），ゲストティーチャーに分類し，それぞれの取組内容を示した（表3～表6）．さらにゲストティーチャーについては業種別の内訳を示した（表7）．

表3のオリンピアン派遣内訳をみると，1976年モントリオール大会に出場した田村悦智子氏（バレーボール）から2016年リオデジャネイロ大会に出場した川井梨紗子氏（レスリング），上田藍氏（トライアスロン）まで幅広い年代のオリンピアンが講師として派遣されている．尚，直近の大会である2016年リオデジャネイロ大会に出場しているのは上田氏と川井氏のみであり，2020年東京大会を目指して現役選手として継続しているのも上記2名のみであった．また，中でも高平慎士氏（陸上）が4回，沖口誠氏（体操）が3回，田村悦智子氏（バレーボール），赤羽有紀子氏（陸上），上田藍氏（トライアスロン）が2回など複数回派遣されていた．

推進校の教員は児童・生徒が認知しているような著名なオリンピアンの派遣を望んでいるが，現役選手はトレーニングの日程や海外遠征などによってスケジュールの調整に難航し，希望通り選手の派遣をできないケースもあったという．

表2　講師派遣内訳

オリンピアン	パラリンピアン	アスリート	パラアスリート	ゲストティーチャー	合計
26（28％）	18（19％）	5（5％）	11（12％）	34（36％）	94

※オリ・パラ教育を実施している学校の中で複数の講師を派遣している学校があるため実施校と講師派遣の合計数が異なっている。

表３　2017 年度オリ・パラ事業派遣講師オリンピアン

地域	学校	氏名	競技	オリンピック出場年
千葉県	習志野市立第七中学校	高平慎士	陸上競技	2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン
	佐倉市立印南小学校	冨田洋之	体操競技	2004年アテネ、2008年北京
	印西市立いには野小学校	山崎一彦	陸上競技	1992年バルセロナ、1996年アトランタ、2000年シドニー
	香取市立佐原第五中学校	岡里明美	バスケットボール	1996年アトランタ
	いすみ市立大原中学校	千田健太	フェンシング	2008年北京、2012年ロンドン
	いすみ市立大原中学校	高尾千穂	スキー	2014年ソチ
	館山市立豊房小学校	田村悦智子	バレーボール	1976年モントリオール
	館山市立豊房小学校	上田藍	トライアスロン	2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ
	館山市立第二中学校	田村悦智子	バレーボール	1976年モントリオール
	館山市立第二中学校	細田雄一	トライアスロン	2012年ロンドン
	県立千葉女子高等学校	上田藍	トライアスロン	2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ
石川県	能登町立宇出津小学校	赤羽有紀子	陸上競技	2008年北京
	七尾市立和倉小学校	赤羽有紀子	陸上競技	2008年北京
	金沢市立北鳴中学校	川井梨紗子	レスリング	2016年リオデジャネイロ
	県立津幡高等学校	杉本美香	柔道	2012年ロンドン
	県立津幡高等学校	嶋本麻美	ウエイトリフティング	2012年ロンドン
	県立鶴来高等学校	堀米光男	ノルディックスキー	1994年リレハンメル、1998年長野、2002年ソルトレイクシティ
	県立鶴来高等学校	山本洋祐	柔道	1988年ソウル
大阪市	大阪市立木川南小学校	沖口誠	体操競技	2008年北京
長崎県	長崎市立福田小学校	高平慎士	陸上競技	2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン
	長崎市立西坂小学校	高平慎士	陸上競技	2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン
	長与町立長与南小学校	高平慎士	陸上競技	2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン
	長崎市立香焼小学校	沖口誠	体操競技	2008年北京
	諫早市立小長井中学校	伊藤華英	競泳	2008年北京、2012年ロンドン
	長崎市立横尾中学校	大東忠司	バドミントン	2004年アテネ、2008年北京
	県立対馬高等学校	森長正樹	陸上競技	1992年バルセロナ、2000年シドニー
	県立大村工業高等学校	沖口誠	体操競技	2008年北京

表４　2017 年度オリ・パラ事業派遣講師パラリンピアン

地域	学校	氏名	競技	オリンピック出場年
千葉県	松戸市立小金中学校	中山和美	陸上競技	2016年リオデジャネイロ
	佐倉市立印南小学校	佐藤圭太	陸上競技	2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ
	香取市立佐原第五中学校	根木慎志	車椅子バスケットボール	2000年シドニー
	山武市立松尾小学校	佐藤圭太	陸上競技	2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ
	山武市立山武南中学校	佐藤圭太	陸上競技	2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ
	長生村立一松小学校	根木慎志	車椅子バスケットボール	2000年シドニー
石川県	小松市立松東中学校	宮島徹也	車椅子バスケットボール	2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ
	県立鶴来高等学校	副島正純	陸上競技	2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ
兵庫県	姫路市立広畑第二小学校	千脇貴	車椅子バスケットボール	2016年リオデジャネイロ
	姫路市立夢前中学校	西家道代	シッティングバレーボール	2012年ロンドン
高知県	県立中芸高等学校	池透暢	ウィルチェアラグビー	2016年リオデジャネイロ
	県立高知丸の内高等学校	池透暢	ウィルチェアラグビー	2016年リオデジャネイロ
	県立中村高等学校	池透暢	ウィルチェアラグビー	2016年リオデジャネイロ
	県立高知若草養護学校	池透暢	ウィルチェアラグビー	2016年リオデジャネイロ
長崎県	五島市立緑丘小学校	芦田創	陸上競技	2016年リオデジャネイロ
	新上五島町立奈良尾小学校	芦田創	陸上競技	2016年リオデジャネイロ
	県立川棚特別支援学校	副島正純	陸上競技	2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ
	県立佐世保特別支援学校	木谷隆行	ボッチャ	2008年北京、2016年リオデジャネイロ
	県立佐世保特別支援学校	副島正純	陸上競技	2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロ

表４のパラリンピアン派遣内訳をみると，全18 回の取組のうち，池透暢氏（ウィルチェアラグビー）が４回，佐藤圭太氏（陸上），副島正純氏（陸上）が３回，芦田創氏（陸上），根木慎志氏（車いすバスケットボール）が２回となり，10 人のパラリンピアンのうち５人が複数回派遣されていた．また表３で示したように，幅広い年代のオリンピアンが派遣されていたが，本事業で派遣されていた全てのパラリンピアンは 2000 年シドニー大会以降の出場者であり，10 人中７人は直近の 2016 年リオデジャネイロ大会に出場している．その７人全員が 2020 年東京大会の出場を目指し現役選手を継続している．

表５のアスリート派遣内訳をみると，全 16 回の取組のうち 11 回がパラアスリートによる取組であった．内容についても障害者理解を目的とした車いすの乗車体験や普段経験することが少ないパラリンピック競技体験を行うなど，講演会のみ

表５　2017 年度オリ・パラ事業派遣講師アスリート（パラアスリート含む）

地域	学校名	校種	取組内容
千葉県	印西市立いには野小学校	小	全日本女子ソフトボール女子代表との交流を実施。
	香取市立小見川北小学校	小	箱根駅伝３回出場経験のマラソンランナーとのマラソン交流。
	千葉県立一宮商業高等学校	高	サーフィン強化選手取材体験。
	千葉県立矢切特別支援学校	特	千葉県の体操選手を講師として体操の実技体験授業。
	習志野市立秋津小学校	小	パラ陸上選手を講師として義足体験授業。
	流山市立小山小学校	小	千葉県内シッティングバレーボールチーム所属選手を講師としてシッティングバレーボール体験授業。
	山武市立山武南中学校	中	千葉県内車いすバスケットボールチーム所属選手を講師として、車いすバスケットボール体験授業。
	一宮町立一宮中学校	中	２０１７年車いすテニスシングルスアジアチャンピオンを講師として車いす体験授業。
	千葉県立八千代高等学校	高	千葉県内シッティングバレーボー ルチーム所属選手を講師としてシッティングバレーボール体験授業。
	千葉県立桜が丘特別支援学校	特	千葉市内ウィルチェラグビーチーム所属選手を講師としてウィルチェラグビー体験授業。
大阪市	大阪市立木川南小学校	小	車いすバスケットボール日本代表選手を講師として車いすバスケットボール体験授業。
	大阪ビジネスフロンティア高等学校	高	パラアーチェリー選手を講師として講演。
	大阪市立天満中学校	中	パラアーチェリー選手を講師として講演。
	大阪市立天満中学校	中	車いすバスケットボール日本代表選手を講師として車いすバスケットボール体験授業。
長崎県	深江中学校	中	車いすバスケットボール選手を講師として車いすバスケットボール体験授業。
	長崎県立壱岐高等学校	高	陸上日本代表選手を講師として講演。

ではなく多岐に渡る内容であった．

表６のゲストティーチャーにおいて，講師の業種や取組内容をみると，千葉県では選手としてオリンピック・パラリンピックに関わっている人だけでなく，競技の運営や強化，普及などに関わる人，さらに障害者や異文化の理解を深めるために福祉施設や自治体の職員，外国人講師を招くなどさまざまな観点でのオリ・パラ教育が行われていた．

表７のゲストティーチャー業種内訳をみると，競技団体が 24%，大学教員，自治体職員が 18%，公認指導員，外国人講師が 12%，高校教員が 3%，農業従事者，スポーツ関係団体，体育協会，その他（地域住民）が 3%であった．オリンピック・パラリンピックに直接関わる競技団体による派遣が多く，次いで多かったのが大学教員，自治体職員であり，パラリンピック競技の説明や体験などによって障害者理解を深めていく内容が多く行われていた．

次に業種の内訳を行った際に１回のみ（3%）の派遣となった特徴的な取組を紹介する．

１つ目は講師を農業従事者から派遣した千葉県松戸市立大橋小学校の取組である．例年学校の取組では梨を育てる活動を行っており，その栽培技術を教えてくれる梨農家の方はドミニカ共和国に松戸市で育てた梨の木を送る事業を手掛けている．実はこのことがドミニカ共和国と松戸市のホストタウン登録に大きく関わっており，そうした背景を基に調べ学習が行われた．

２つ目は講師を体育協会から派遣した千葉県いすみ市立太東小学校である．2020 年東京大会より新競技となるサーフィン体験がいすみ市体育協会サーフィン部の協力のもと行われた．サーフボード上で腹ばいになって漕ぐ姿勢(パドリング)からライディングに挑戦し，成功した児童からは，「楽しかった」，「またやってみたい」といった感想もあり，サーフィンの魅力を味わうことができる体験となった．

３つ目は講師をスポーツ関係団体から派遣した千葉県館山市立第二中学校である．日本スポーツボランティアネットワークの方による，スポーツボランティアについての講演が行われた．グループワーク学習によってリーダーシップ，フォローワーシップの必然性やチームで課題を乗り越えていく過程を学び，また 2016 年リオデジャネイロ大会のボランティアと 2020 年東京大会への関わりについての講演が行われた．

４つ目はその他（地域住民）の派遣である．千

表６　2017 年度オリ・パラ事業派遣講師ゲストティーチャー

地域	学校名	校種	取組内容	派遣者	業種
	習志野市立秋津小学校	小	習志野高校バスケ部監督および高校生２０名による９０分間のバスケットボール教室を全校児童対象で実施。	習志野高校教員	高校教員
	習志野市立香澄小学校	小	習志野高校バスケ部監督および高校生２０名による９０分間のバスケットボール教室を全校児童対象で実施。	習志野高校教員	高校教員
			日本ゴールボール協会理事を講師として、順天堂大学准教授と大学院生３名がサポートし、ゴールボール体験型教室。	日本ゴールボール協会理事	競技団体
	松戸市立大橋小学校	小	梨農家の方による梨の栽培とドミニカ共和国との関りについての学習。	梨農家	農業従事者
	松戸市立小金中学校	中	ドミニカ共和国の方を講師として言語、文化・慣習等についての交流学習。	ドミニカ共和国	外国人講師
	佐倉市立根郷中学校	中	地区社会福祉協議会、市ボランティアセンター、市障害福祉課の協力による車椅子体験学習。	佐倉市障害福祉課職員	自治体職員
			視覚障がい者利用施設の協力による、アイマスク体験講座。	視覚障がい者利用施設職員	自治体職員
	成田市立久住小学校	小	地域の方を講師として、学校周辺の水田地帯に伝わる伝統的な「牛馬作り」体験。茶道専門家を講師として茶道体験。	牛馬つくり講師、茶道講師	その他
	成田市立久住中学校	中	外国人講師と中学校１年生のサポートによる、小学校低学年の国際交流学習、。ゲストティーチャーが買い物に来た外国人役をし、場に合った英会話をする力をつける学習。	外国人講師	外国人講師
	印西市立印旛中学校	中	順天堂大学スポーツ健康科学部と連携し、オリンピックとバスケットボールの歴史、バスケットボールの体験授業。	順天堂大学スポーツ健康科学部	大学教員
	山武市立松尾小学校	小	社会福祉協議会の協力のもと、目や耳に障害のある方を講師として、福祉体験学習。	視覚障がい者・聴覚障がい者	自治体職員
	一宮町立東浪見小学校	小	サーフィン講師の指導の下、サーフィン体験学習。	サーフィン講師	競技団体
			大学客員教授元ＪＡＬ客室乗務員を講師として講演。	筑波大学客員教授	大学教員
	一宮町立一宮小学校	小	町の福祉健康課職員、特養老人ホームの職員を講師として福祉体験教室。	一宮町福祉健康課職員、特別養護老人ホーム職員	自治体職員
			地域在住のラグビーチームコーチを講師として、ラグビー体験教室。	ラグビーチームコーチ	競技団体
	一宮町立一宮中学校	中	卒業生、日本サーフィン連盟千葉東部長を講師として、サーフィン講演会を開催。	卒業生 日本サーフィン連盟千葉東部長	競技団体
	いすみ市立太東小学校	小	いすみ市サーフィン業組合、ライフセーバーチーム「Ｊプロ」、いすみ市体育協会サーフィン部の協力を得てサーフィン体験学習。	いすみ市体育協会サーフィン部	体育協会
			ニュースポーツ専門の講師が開発したリズムダンスやゴール型のボール・ゲームを体験学習。	ニュースポーツ講師	競技団体
	館山市立豊房小学校	小	ボッチャ指導員を迎えての体験授業。	ボッチャ指導員	競技団体
	館山市立第二中学校	中	日本スポーツボランティアネットワークの方をとして講演。	日本スポーツボランティアネットワーク	スポーツ関係団体
			千葉科学大学教授を講師として講演。	千葉科学大学教授	大学教員
			大学客員教授元ＪＡＬ客室乗務員を講師として講演。	筑波大学客員教授	大学教員
	千葉県立八千代高等学校	高	東洋大学ライフデザイン学部教員を講師として講演。	東洋大学ライフデザイン学部	大学教員
			八千代市社会福祉協議会の方を講師として車いす体験・アイマスク体験と補助体験	八千代市社会福祉協議会	自治体職員
			公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構教育・国際部国際企画グループの方を講師として講演。	公益財団法人日本アンチドーピング機構教育・国際企画グループ	競技団体
	千葉県立一宮商業高等学校	高	ちば国際コンベンションビューローマネージャーを講師としてゴールボール講習会開催	ちば国際コンベンションビューローマネージャー	自治体職員
			サーフィン選手をゲストに招き、生徒がインタビュー形式で講演会を開催。	サーフィン講師	競技団体
千葉市	千葉市立蘇我中学校	中	大学の先生を講師としてシッティングバレーボールの体験授業。	大学教員	大学教員
大阪市	大阪市立木川南小学校	小	外国人講師による調べ学習	GabriellaCailotto、Osakacitynativeenglishteacher	外国人講師
	大阪市立天満中学校	中	外国人講師による調べ学習	GabriellaCailotto、Osakacitynativeenglishteacher	外国人講師
兵庫県	兵庫県立社高等学校	高	日本陸上競技連盟専務理事を講師として講演。	日本陸上競技連盟専務理事	競技団体
長崎県	小長井中学校	中	アスティックトレーナーを講師としてオリンピック・パラリンピックの歴史や精神について講演および実技体験。	アスレティックトレーナー	公認指導員
	深江中学校	中	アスティックトレーナーを講師としてオリンピック・パラリンピックの歴史や精神について講演および実技体験。	アスレティックトレーナー	公認指導員
	長崎県立対馬高等学校	高	アスティックトレーナーを講師としてオリンピック・パラリンピックの歴史や精神について講演および実技体験。	アスレティックトレーナー	公認指導員
	長崎市立横尾中学校	中	アスティックトレーナーを講師としてオリンピック・パラリンピックの歴史や精神について講演および実技体験。	アスレティックトレーナー	公認指導員

表７　2017 年度オリ・パラ事業ゲストティーチャー業種内訳

高校教員	大学教員	競技団体	農業従事者	外国人講師	スポーツ関係団体	体育協会	公認指導員	自治体職員	その他	合計
2	6	8	1	4	1	1	4	6	1	34
6	18	24	3	12	3	3	12	18	3	%

葉県成田市立久住小学校は伝統文化体験として，地域の方を講師として学校周辺の水田地帯に伝わる伝統的な牛馬作り体験と茶道体験を行った．

このようにオリ・パラ事業ではオリンピアン・

パラリンピアンだけではなく，テーマに応じて，さまざまな人たちが派遣され，さまざまな視点からオリ･パラ教育の実践が行われているのである．

Ⅲ．まとめ

オリ・パラ教育においてはオリンピアンやパラリンピアンなどの講師を派遣する方法が多く実践されているが，昨今，オリ・パラ教育への理解が深まることにより，講師派遣の中でもオリンピアン・パラリンピアンではなく，競技の普及や広報活動を目的とした競技に関わる人々（競技団体スタッフなど），障害者や異文化への理解を深めていくことを目的とした地域における福祉施設や自治体職員，地域在住の外国人講師などさまざまな視点でオリ・パラ教育が実践されるようになっている．今後はこのような実践を広めていく方法を検討することが必要である．

また，講師派遣の際には講師とのスケジュール調整や謝礼の支払いなどさまざまな弊害が生じてくる．このことからも，日頃から地域との関りを持ち，継続可能な内容を検討していくことが必要となる．

現在，IOC，IPC，JOC，JPC，JOA（日本オリンピックアカデミー），スポーツ庁，東京都教育委員会らによって，オリ・パラ教育実践教材が多数出版されている[6, 7, 8]．こうした教材をふまえて，実践者となる教員がオリンピック・パラリンピックへの理解を深めることにより，講師を招聘することなく実践することも可能となっていくであろう．そして何よりも重要となるのがオリ・パラ教育を行うことで児童・生徒に何を伝えることができるのか，児童・生徒が何を身につけ，何ができるようになるのかということへの自覚である．この目標設定を明確化し，実践していくことができなければオリ・パラ教育に教育的な価値を見出すことができず，レガシーとして遺すことも難しくなるであろう．

本稿ではオリ・パラ教育実践の特徴把握に向けて講師派遣の内容分析を行った．今後も実践テーマに応じた方法や内容が検討され，さまざまな視点でオリ･パラ教育が実践されることを期待する．そのことによってオリ・パラ教育の可能性が広がり，教育的な価値を高めていくことも可能であろう．しかし本稿は日本体育大学が2017年に支援した7地域74校の実践を元にした報告であり，地域によって推進校数，学校による実践回数もばらつきがある．このことからオリ・パラ教育の効果を明確に検証したものではない．他の中核拠点大学とともに更に実践データを積み重ね，分析していくことが必要であり，今後の課題である[9]．

注および参考引用文献

1) 東京都教育委員会（2016）「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針．https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/opedu/static/page/admin-school/pdf/20q1e202.pdf
東京2020教育プログラムは東京2020参画プログラムの一部としても位置付けられる．この東京2020参画プログラムには，スポーツ・健康，街づくり，持続可能性，文化，教育，経済･テクノロジー，復興，オール･ジャパン･世界への発信の8つの分野が設けられている．公益財団法人東京オリンピック･パラリンピック競技大会組織委員会HPを参照．https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/certification/logo/

2) オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議(2016)オリンピック･パラリンピック教育推進に向けて最終報告．p. 4. http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/004_index/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375094_01.pdf

3) 同上．

4) 推進校の実践ではゴールボール，シッティングバレーボール，車いすバスケットボールといった競技種目が行われている．

5) N-COPE（2018）平成 29 年度スポーツ庁委託事業　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書．https://www.nittai.ac.jp/ncope/reports_schools/index_2017.html

6) 日本オリンピック・アカデミー（2018）オリンピック価値教育の基礎．

7) 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会（2017）I'mPOSSIBLE

8) スポーツ庁政策課学校体育室（2017）オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料．

9) 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE），N-COPE，早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター（ROPE）による実践事例集が下記にて公開されている．
CORE，N-COPE，ROPE（2018）平成 29 年度スポーツ庁委託事業オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業実践事例集．http://core.taiiku.tsukuba.ac.jp/wp-content/uploads/2018/07/986e0e98d4368 ce15a8667ee3e6339a5.pdf

付記

本研究は，平成 29 年度「スポーツ庁委託事業オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を受けて行った．

（受理日：2019 年 5 月 7 日）